

# 三重県桑名市

## 桑名城下町遺跡発掘調査報告書

～鍛冶町 34 地点～

### 例言

- 1 本書は三重県桑名市鍛冶町 34 番地に所在する桑名城下町遺跡（市遺跡 No. 99）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は個人住宅建設にともなう事前調査であり、平成 11 年度国庫補助金、県費補助金の交付を受けて実施した。
- 3 調査は現地での発掘作業を平成 12 年 1 月 17 日～21 日にかけて行った。整理作業は引き続き 3 月にかけて実施した。
- 4 調査体制は以下のとおりである。  
調査主体 桑名市教育委員会  
調査担当 斉藤理（桑名市教育委員会）  
調査参加者 稲垣英三子、浅野直士、大橋寛幸、北井隼人、佐野梓
- 5 本書は平野亜紀（桑名市教育委員会）の協力を得て、水谷芳春（桑名市教育委員会）、斉藤が執筆、編集を行った。
- 6 発掘調査及び、報告書の作成過程において、三重県教育委員会、三重県埋蔵文化財センターにご指導、ご協力いただいた。
- 7 調査に関する記録、及び出土遺物は桑名市教育委員会で保管している。

### 目次

#### 本文目次

- I 桑名城下町遺跡の立地と環境
- II 調査に至る経緯と経過
- III 遺構
- IV 遺物
- V まとめ

#### 表目次

- 表 1 遺物一覧表

#### 図目次

- 図 1 調査地点位置図（1：25000）
- 図 2 調査地点位置図（1：2500）
- 図 3 調査区平面図
- 図 4 遺構断面図
- 図 5 刻印のある石実測図
- 図 6 遺物実測図
- 図 7 遺物実測図

#### 写真図版目次

- 写真図版 1 遺構
- 写真図版 2 遺構、作業状況
- 写真図版 3 出土遺物

## I 桑名城下町遺跡の立地と環境

本遺跡の所在する桑名市は三重県の北部に位置し、東は愛知県に、北は岐阜県、西は滋賀県と近接している。本遺跡は愛知県との境を成す木曾川、揖斐・長良川の右岸に広がる沖積地の北東端、伊勢湾に面する緩やかな平野に立地する。この沖積地は近世以前は「自凝洲崎」「加良洲崎」「泡洲崎」の3つの洲崎に分かれていたとされるが、その後本多忠勝らによってすすめられた、いわゆる「慶長の町割」等によって桑名城下町として利用されることとなった。

調査地の地番は鍛冶町34番地で、周辺には鍛冶町御門やセツ屋橋、常夜灯があったとされ、桑名城下町の西の入口のひとつであったと考えられる。(斉藤)

## II 調査に至る経緯と経過

平成11年12月14日付教社第239号にて青山茂孝氏から、今回の調査地である桑名市鍛冶町34番地の93,59㎡について個人住宅建設計画があるため、桑名市教育委員会に文化財の所在の有無及びその取扱を照会する文書が提出された。

教育委員会は周知の遺跡である桑名城下町遺跡(市遺跡No.99)の範囲内であること、開発を行う場合は事前に記録保存のための発掘調査が必要な旨を回答した。

その後、数度の話し合いを経たが、住宅建設の工法上現状保存が困難であったため、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

青山氏より、平成11年12月20日付教社第239の3号で文化財保護法第57条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出を受けた教育委員会は、平成12年1月17日発掘調査に着手した。文化庁に対する埋蔵文化財発掘調査着手の報告は、文化財保護法第98条の2第1項に基づき、平成12年1月17日付教文第239の7号にて行った。

調査は1月17日に開始した。表土層から順次重機にて掘削を行い、土層の境等では必要に応じて人力による掘削、精査を行った。表土直下からは昭和20年の桑名空襲の際の焼土層が確認され、さらに下層に掘りすすめたところ、-0,4mのレベルで石積みと胴木が検出された。引き続き遺構実測、写真撮影等を行い、現地調査は1月21日に終了した。(水谷)

## III 遺構

遺構は最下層で石積みと胴木が検出された。堀ないしは水路として利用されていたと思われる。埋土は表土直下で昭和20年の桑名空襲の際の焼土層が検出された。最下部には近世に堆積したと考え得る有機質黒色土層が部分的に認められたが、大部分は明治以降に堆積した土層であった。

**胴木** 直径約0,25m、長さ約6mの松材を樹皮がついたまま使用。数カ所に切り込みを入れ、屈曲を補正している。調査区の西・南・北の3カ所で確認され、それぞれ2～3本をセットとして使用。

**石積み** 調査区の西側で検出。南・北側では基礎部分のみが残存する。胴木の間には人頭大の自然石を配置し、石積みの根石としている。堀を埋め立てる際に石積みのほとんどが撤去され、根石部分が残存したものである。

**刻印のある石** 調査区の北東隅で検出。大きさは0,6m×0,5m×0,4mで、西向きの面に刻印が認められた。何らかの記号と思われる。(斉藤)

## IV 遺物

遺物は表土層や戦災復興の際の攪乱層からの出土が最も多く、遺構に伴う遺物はごくわずかであった。主に近世～明治初頭にかけての瀬戸美濃産陶磁器や、肥前産の磁器類が出土している。法量等の詳細は遺物観察表（表1）を参照されたい。

**瀬戸美濃陶器** 碗・皿・鉢・徳利等が出土している。1は灰釉の碗。2は鉄釉の筒型碗。3は灰釉の油皿。4は搦鉢。5は鉄釉の銭甕。6は蓋物。7～11は徳利。7は「桑名」「佐保屋」「八サ」、8は「佐保屋」「八サ」、9は「…屋」「□□…」「□□…」、10は「…屋」「□□…」、11は「…屋」「□□…」とそれぞれ鉄字が書かれる。12は灰釉の水甕。底部中央に直径8mmの孔が穿たれている。焼成後の穿孔であり、植木鉢に転用していたものと思われる。

**肥前磁器** 碗・皿・花瓶等が出土している。13は染付の碗。14は白磁の紅皿。「小町紅」「京都」「□□…」と上絵付される。15は染付の筒型碗。16は染付の皿。内面にはコンニャク判により花文が施される。17は青磁の花瓶。（斉藤）

## V まとめ

調査面積はさほど広くなかったものの、特色ある遺構が検出された。石積みと胴木は出土遺物から、江戸時代末頃まで機能していた石垣を持つ堀、ないしは水路に伴うものと思われる。その後明治初頭には石垣を撤去し、埋め立てを行ったようで、石垣は最下部の一部が撤去されずに残され、刻印のある石、胴木、胴木の間にある石等は何らかの理由で残置されたものと思われる。

（斉藤）

### <参考文献>

- 桑名市教育委員会 『桑名市史 本編』 1959  
桑名市教育委員会 『桑名市史 補編』 1960  
桑名市教育委員会 『桑名市史 続編』 1987  
藤沢良祐「本業焼の研究(1)」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』VI 瀬戸市歴史民俗資料館 1987  
藤沢良祐「本業焼の変遷(2)」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』VII 瀬戸市歴史民俗資料館 1988  
藤沢良祐「本業焼の変遷(3)」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』VII 瀬戸市歴史民俗資料館 1988  
大橋康二 『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』 ニューサイエンス社 1993



図1 調査地位置図 (1 : 25000)

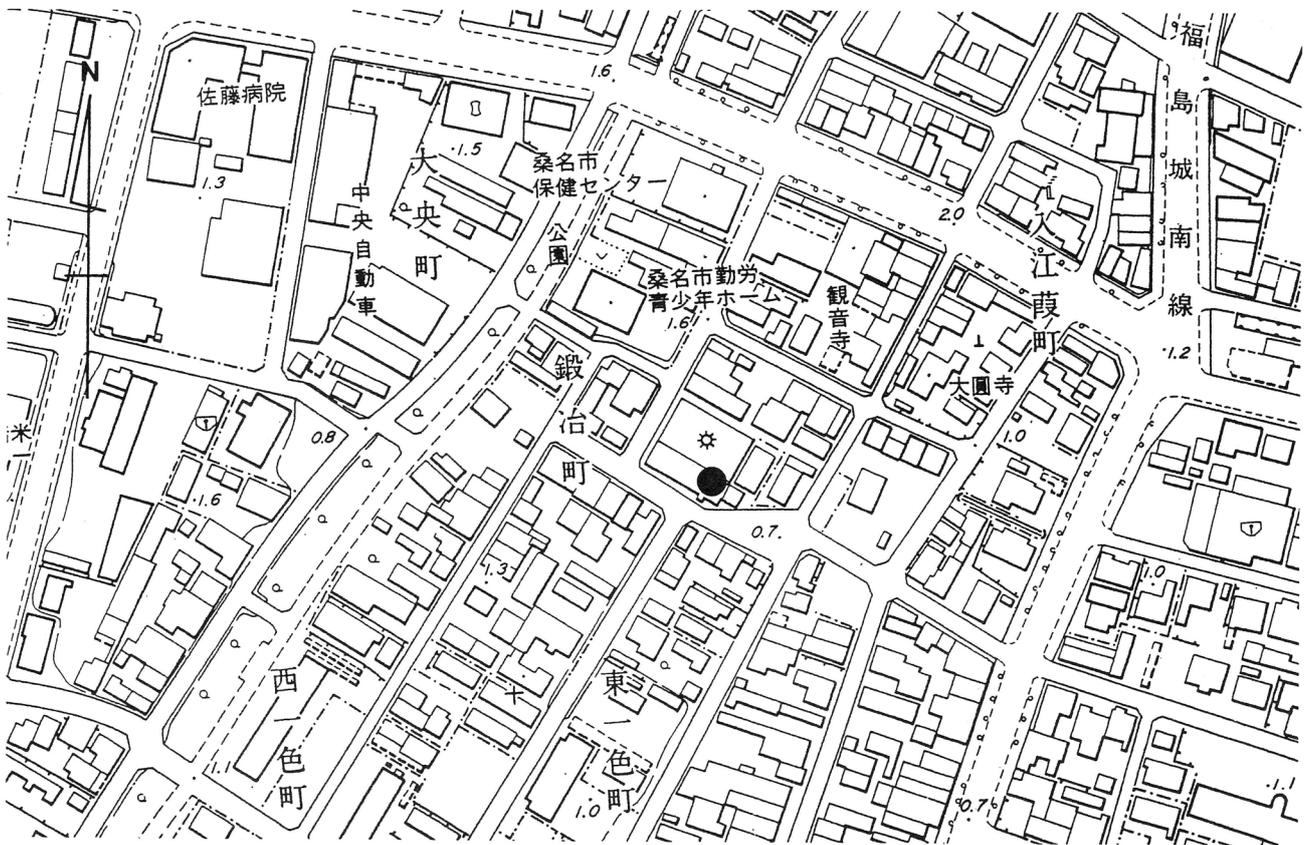
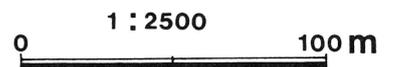


図2 調査地点位置図 (1 : 2500)





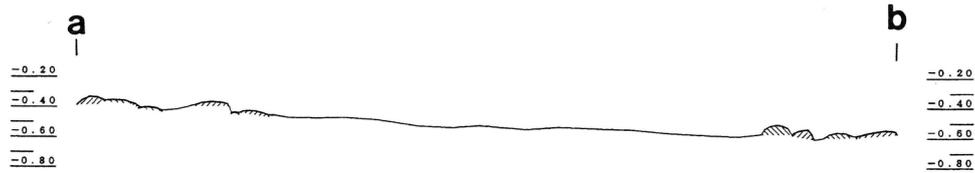


図4 遺構断面図 (1:50)

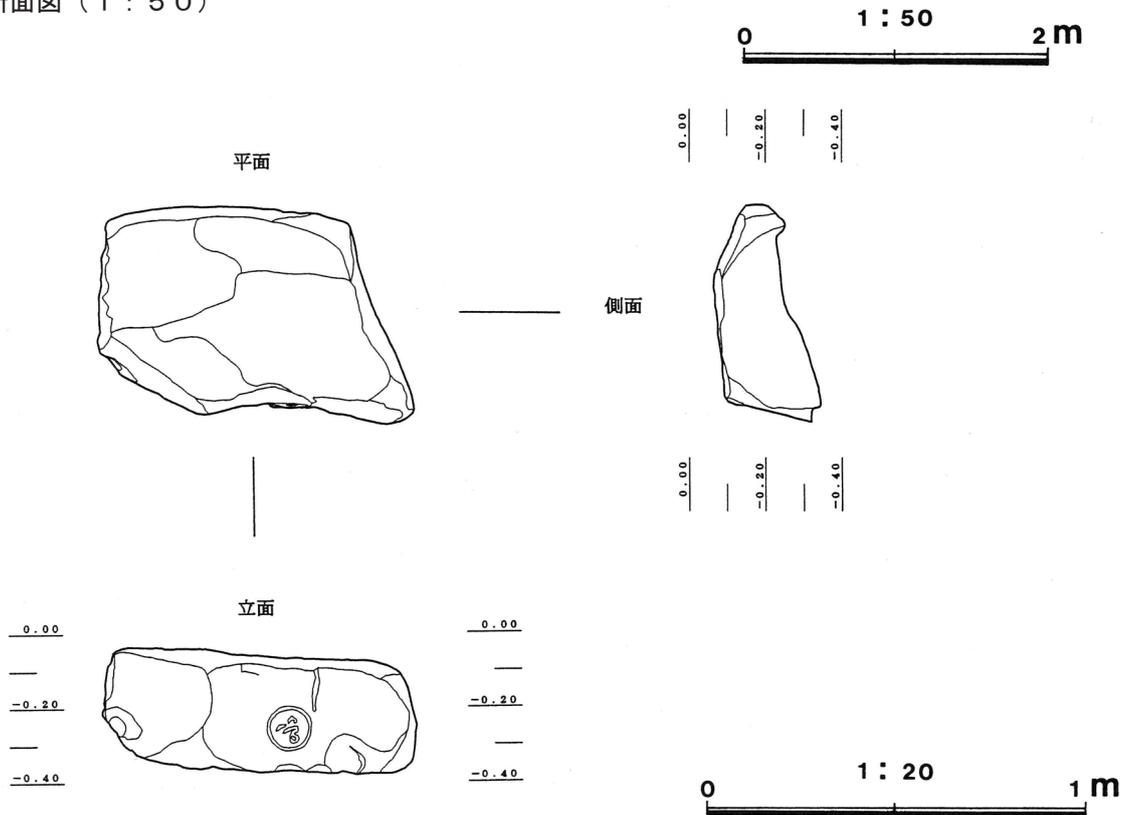


図5 刻印のある石実測図 (1:20)

報告書 番号	遺構・層位	器種	法量 (cm)			備考
			口径	底径	器高	
1	黒色有機物層	陶器 碗	-	(4.1)	-	内面・外面体部灰釉、瀬戸美濃産
2	堀埋土	陶器 筒型碗	-	(5.0)	-	内面・外面体部鉄釉、内面底部にトチ目4ヵ所、瀬戸美濃産
3	堀埋土	陶器 油皿	(6.8)	(3.7)	1.2	内面・外面体部灰釉、瀬戸美濃産
4	表土層	陶器 播鉢	(34.8)	(13.4)	15.3	内外面鉄釉、櫛目18本、瀬戸美濃産
5	戦災攪乱層	陶器 銭甕	(14.8)	-	-	内外面鉄釉、瀬戸美濃産
6	桐木の間	陶器 蓋物	-	-	-	外面体部灰釉、瀬戸美濃産
7	戦災攪乱層	陶器 德利	2.5	9.5	25.3	外面灰釉・外面底部釉拭い取り・外面体部鉄字「桑名」「佐保屋」「八サ」、瀬戸美濃産
8	堀埋土	陶器 德利	1.7	-	-	内外面灰釉・外面体部鉄絵「八サ」「佐保屋」、瀬戸美濃産
9	戦災攪乱層	陶器 德利	-	9.3	-	内外面灰釉・外面底部釉拭い取り・外面体部鉄字「屋」「口」「口」、瀬戸美濃産
10	戦災攪乱層	陶器 德利	-	9.7	-	内外面灰釉・外面底部釉拭い取り・鉄字「屋」「口」、瀬戸美濃産
11	戦災攪乱層	陶器 德利	-	(7.7)	-	内外面灰釉・外面底部釉拭い取り・外面体部鉄字「屋」「口」、瀬戸美濃産
12	表土層	陶器 水甕	-	16.9	-	内面・外面体部灰釉、内面底部にトチ目4ヵ所、底部中央に直径8mmの穿孔瀬戸美濃産
13	戦災攪乱層	磁器 碗	-	3.8	-	染付、肥前産
14	戦災攪乱層	磁器 紅皿	(6.7)	(2.2)	2.6	外面体部上絵付「口」「小町紅」「京都」
15	黒色有機物層	磁器 筒型碗	-	(3.6)	-	染付、肥前産
16	堀埋土	磁器 皿	(10.2)	(5.3)	1.9	染付、内面コンニャク判、肥前産
17	黒色有機物層	磁器 花瓶	-	-	-	内外面青磁、肥前産

復元値については( )で示した。

表1 遺物観察表

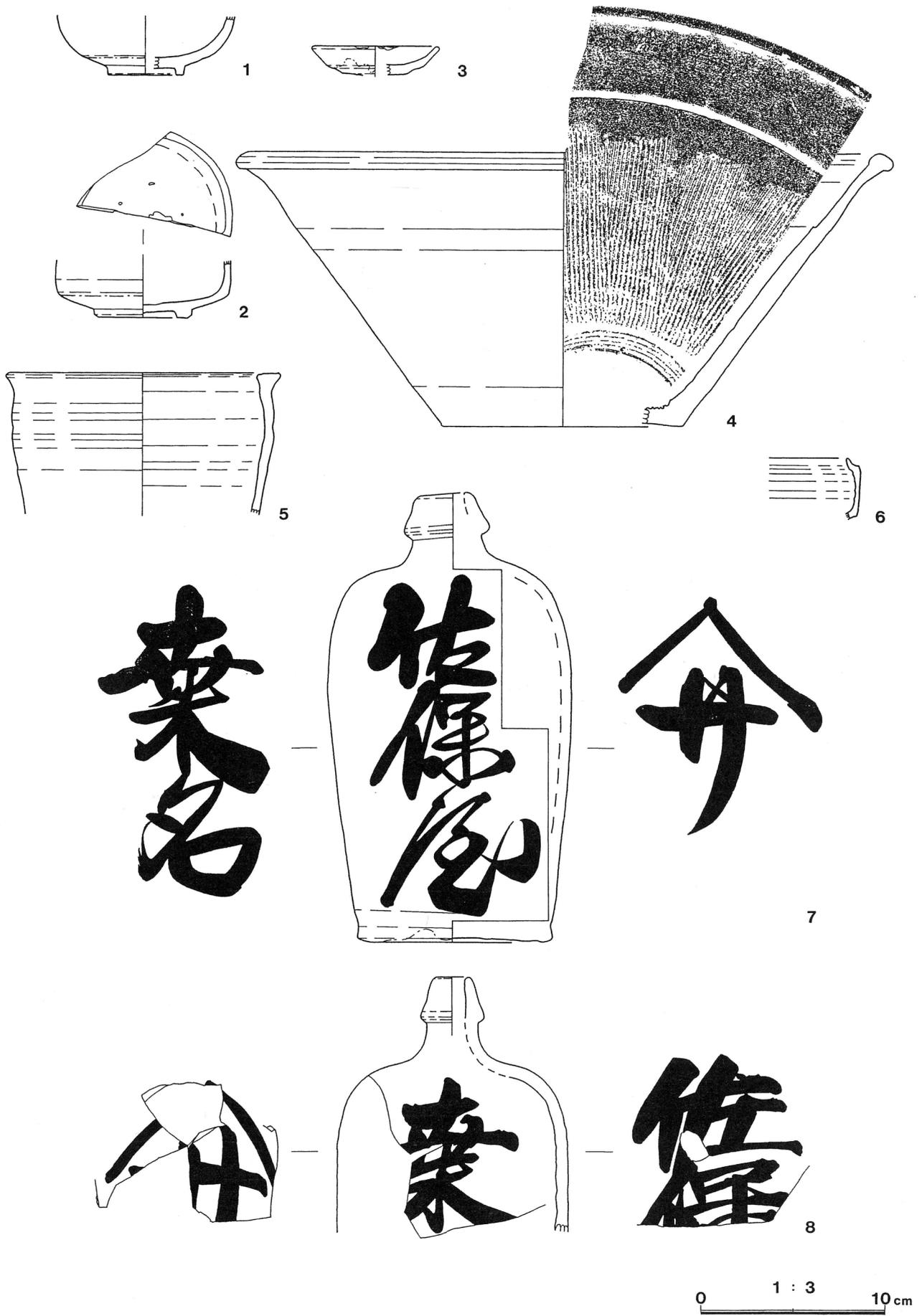


图6 遺物実測図 (1 : 3)

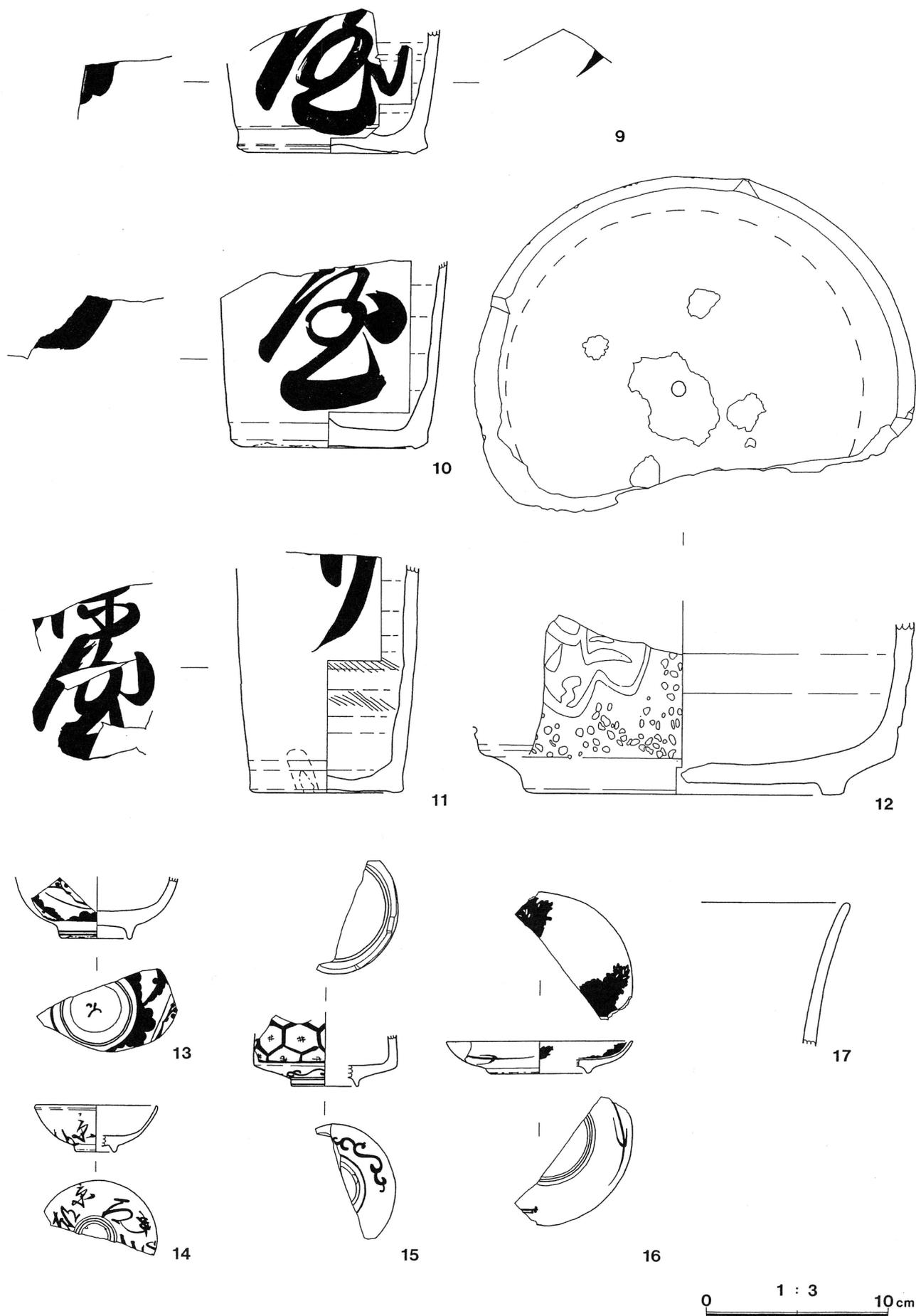
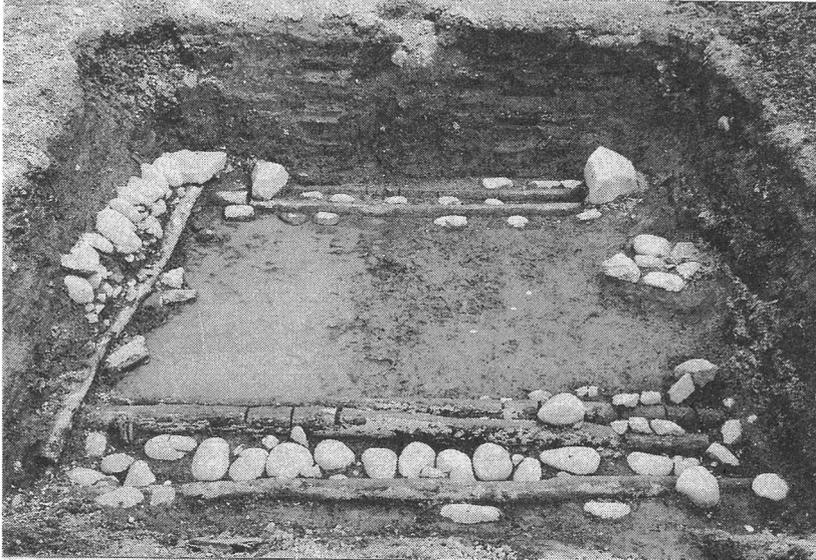
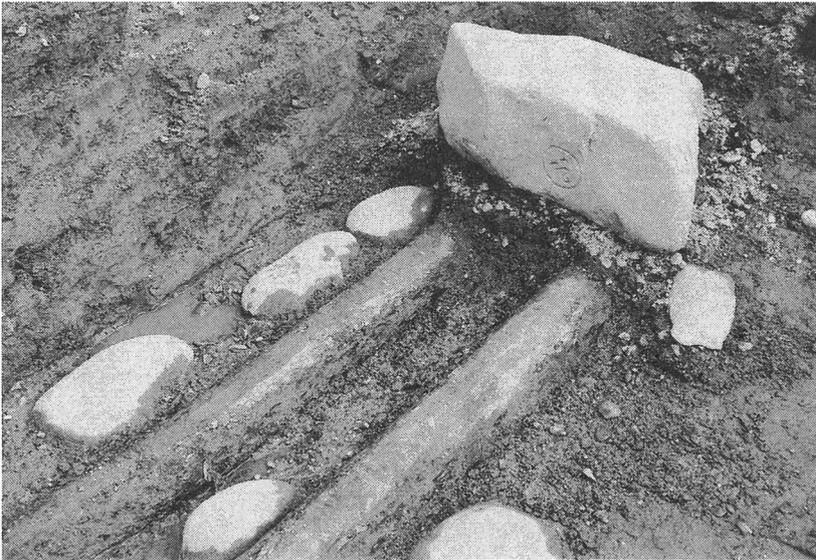


图7 遺物実測図 (1 : 3)



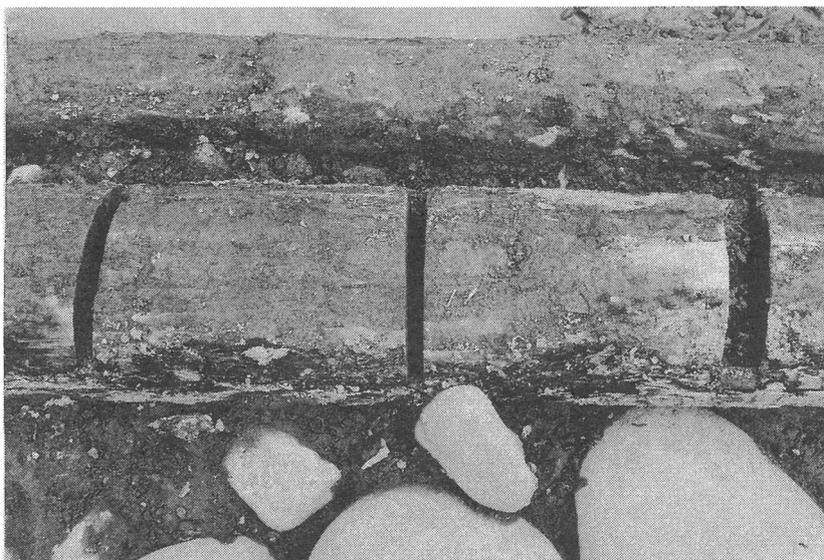
調査区近景



刻印のある石出土状況



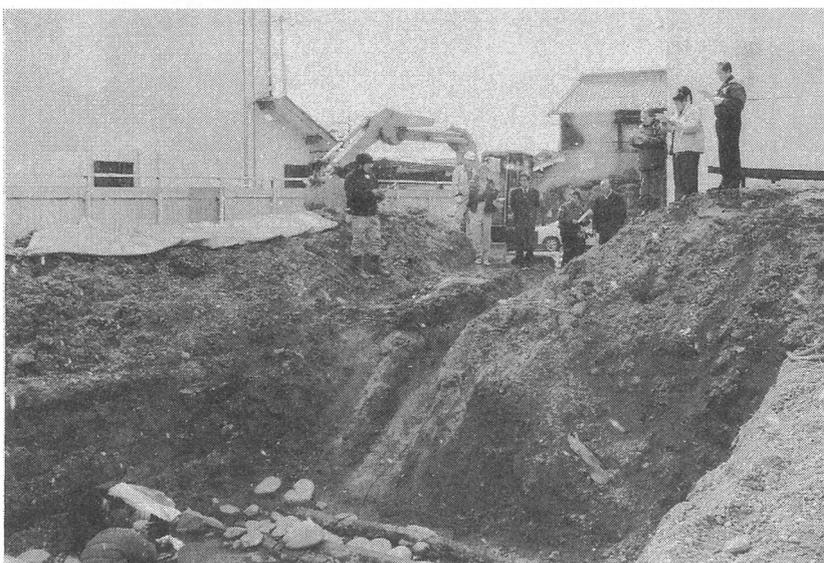
刻印



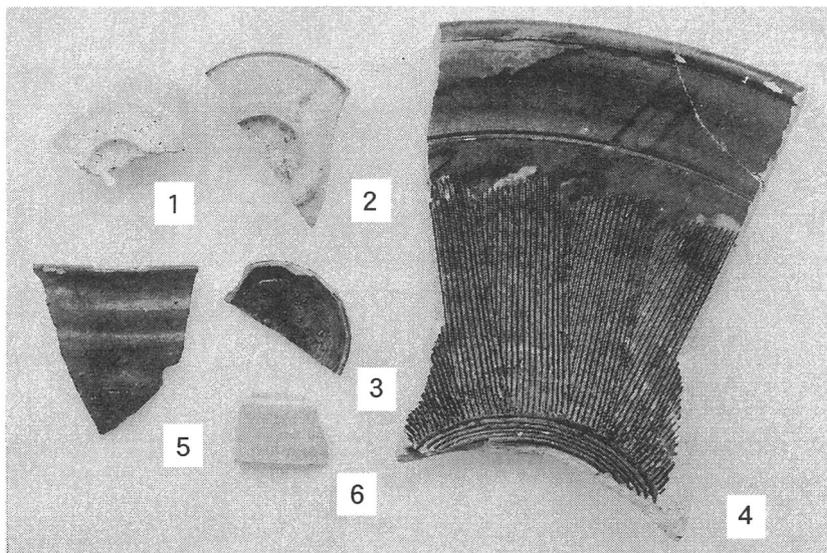
桐木検出状況



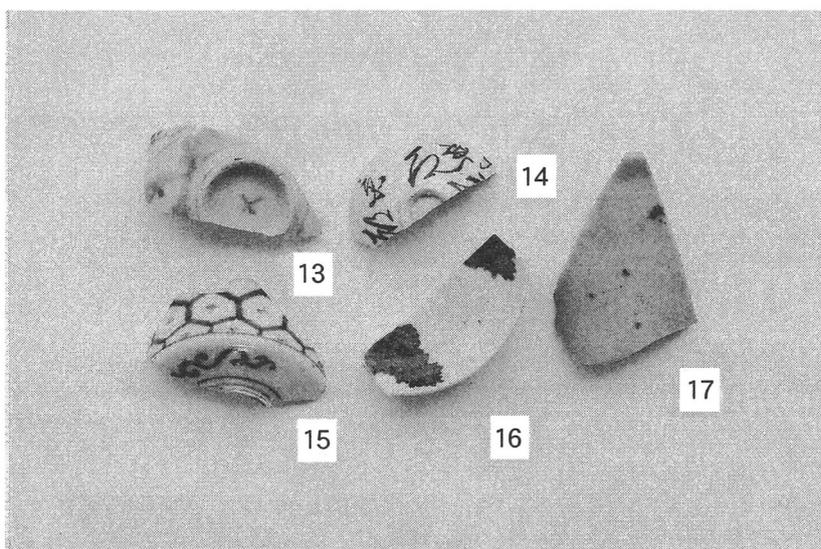
測量状況



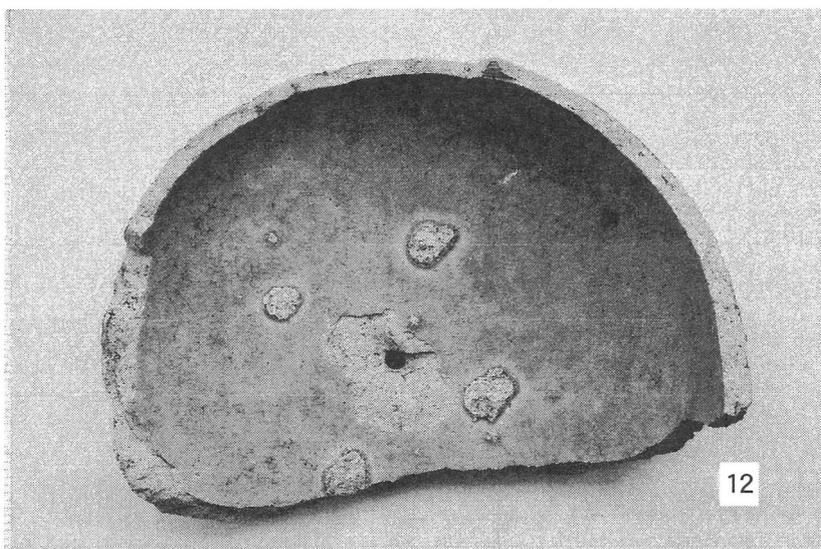
現地発表



出土遺物



出土遺物



出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	くわなじょうかまちいせきはつくつちょうさほうこくしよ ～かじまち34ちてん～						
書名	桑名城下町遺跡発掘調査報告書 ～鍛冶町34地点～						
編著者名	水谷芳春、斉藤理						
編集機関	桑名市教育委員会						
所在地	511 三重県桑名市中央町二丁目37番地 TEL0594-24-1361						
発行年月日	西暦2000年3月31日						
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
くわなじょうかまち 桑名城下町 いせき 遺跡 かじまち ～鍛冶町34 ちてん 地点～	みえけんくわなし 三重県桑名市 かじまち 鍛冶町34 ばんち 番地	242055  No.99	35° 3' 28"	136° 41' 30"	2000.1.17 ～ 2000.1.21	93 m <sup>2</sup>	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
桑名城下町 遺跡	集落跡	近世	堀 石積み 胴木		近世陶磁器	堀に伴う石積みの基礎部分を検出	

### 桑名城下町遺跡発掘調査報告書

～鍛冶町34地点～

平成12年3月31日

編集・発行 桑名市教育委員会